

## 第1回 沼津市総合教育会議 議事録

- 開催日時 平成28年5月26日（木曜日）15時00分～16時00分
- 開催場所 沼津市立第四小学校 多目的ホール
- 出席者 市長 栗原 裕康  
教育長 服部 裕美子  
教育委員 三好 勝晴  
教育委員 土屋 葉子  
教育委員 川口 浩史
- 協議・調整事項
  - (1) 重点施策について
  - (2) その他

### 【内容】

#### 1 開会

#### 2 市長挨拶

教育委員の皆様方には、それぞれお忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。また、傍聴に来ていただいた多くの方々に対しましてもお礼申し上げます。

さて、今年度から教育長が義務教育出身の教育長に代わり、私も久しぶりに学校の現場へ参りました。本日は、ALT、特別支援学級、通常学級等の様子を参観しましたが、特に知的障害学級で指導に当たっている先生の姿を見まして、教育の原点はここにあると、つくづく感じました。

昨年度策定いたしました教育大綱におきましては、コミュニケーション能力の向上、特に英語力の向上といったことをはじめ、いくつかの基本的な方策を示しました。今年度は、教育大綱で示したことを、年度を通じてどのように実現していくのか、また、これまでに取り組んできたことに対する評価はどうだったのかということも含め、議論をさせていただきたいと思います。本日はよろしく願いいたします。

#### 3 協議・調整事項

##### (1) 重点施策について

- ・英語教育について、学校教育課指導主事が説明。

(市長)

本市においては、言語特区ということでこれまでに10年間「英語の時間」に取り組んできているが、成果の検証はどのように行っているのか。また、目標を達成したかどうか判断する客観的な指標はあるのか。

(事務局)

数値的なもので表すことは難しい面もあるが、例えば、「英語の時間」に関する児童生徒へのアンケート、先生方からの声、英検を受験する児童生徒の割合などを総合的に捉えながら評価を行っている。また、英語弁論大会へ出場し、東部大会から県大会へ出場する生徒が毎年いるということや、英語を使ったコミュニケーションに興味を持つ生徒が増えていることから、成果は確実に上がっていると判断している。

(市長)

英語に興味や親しみを持つようになったというアンケート結果や、英検の受験者数増加という結果は重要であると思う。それらの結果は外部に公表しているのか。また、教育委員会としては客観的にどのように評価をしているのか。

(学校教育課長)

英検の受験者数や合格者数の数値は公表していないが、年々増加している。特に小学校低学年から英語の時間で学んできた児童が中学3年生になってきた頃から英検の合格率もかなり上昇してきたことから、成果が上がってきていると評価している。

(市長)

ALT が児童生徒に関わる授業は、今考えられる指導の中でベストだと思う。これからはスピーキング、話す能力がより一層重要視される。オールイングリッシュによる英語の授業という視点も含め、現場でスムーズに実施できるようにしていきたい。

いずれにせよ、児童生徒には、外国の人に道を聞かれたときに逃げ出すことがないようになってもらいたい。今年度は、イングリッシュアドベンチャーなどいろいろな事業に取り組むが、外国の人と片言でもいいから積極的に関わられるようになってもらいたい。

(教育長)

数値としての成果、小学校から英語に関わってきた中学生の見届け等についての評価が不足していたことは否めないが、評価がしづらく大変難しいものである。

小学校の英語の時間を見ると、児童はとても楽しく取り組んでいる。担任が児童の実態を把握した上で授業に臨み、ALT は英語を話すとともに自国の良さを伝えるなど、児童に良い影響を与えている。そういったことを踏まえ、児童生徒の様子として大きく3つの成果が上がっていると捉えている。

1つ目は、コミュニケーション力が高まってきているということである。先ほど市長が触れた、外国の人と接することをためらわない児童生徒が増えていると感じている。英語の時間はジェスチャーを取り入れ、児童生徒がのめり込む授業になっている。児童生徒が繰り返し確かめながら話をしたり、ALT の口元をしっかりと見たりしながら、自己の表現力を高め、力が付いてきていると感じる。「英語の時間」に簡単なフレーズを用いて友達とコミュニケーションをとることが楽しいという態度が育ってきていることは大きな成果と捉えている。

2つ目は、英語への関心が高まってきているということである。「このことについて英語ではなんと言ったらいいのだろう」といった質問が授業中に見られる。そういった関心が、中学校の英語の学習への関心の高まりにつながっていると思う。

3つ目は、外国への関心が高まっているということである。英語の授業や教材、内容に対して、ALT に対して等、外国への関心が高まっている。また、外国のことを知ることが、日本を見つめ直す機会にもなっており、国際理解という視点からも児童生徒が育っていることを感じる。ALT を取り入れている本市の成果であると感じている。

(委員)

英語の時間の目的に沿い、成果があらわれていると捉えて良いか。

(教育長)

良いと思う。ただ、今後の課題として、本市が取り組んできた「英語の時間」が中学生の英語力に着実につながっているかということについて目を向けていく必要がある。

(委員)

私の子どもは小学生と幼稚園にいるが、ALT がつく授業があった日は、英語で話をするなど、関心が高まっていると感じる。

日本語の周波数と英語の周波数は異なるという話もあるため、小学校低学年のころからいろいろな活動の中で ALT の本物の英語を聞くことは非常に有効であると思う。中学生になると文法なども出てくるが、着実に力になっていると思う。

ただし、コミュニケーションという点では、日本語でのコミュニケーション、例えば、言い方や言い回し、会話の教育というものも力を入れないといけないと思う。無意識に言ったことが相手を傷つけるようなことがあってはいけない。英語と同様

に日本語でのコミュニケーションの取り方を学ぶことが重要であると思う。

(委員)

異文化を知ると同時に自分たちの文化、そして沼津市や自分たちが住む地域を知ることにつなげることも重要であるとする。

(委員)

ALT がつく授業では子どもたちがとても生き生きと活動していた。これからも子どもたちが楽しく学べる機会をたくさん作ってもらいたい。

(学校教育課長)

現在の学習指導要領には、小学校5・6年生に年間35時間の外国語活動を行うと記されている。本市では、独自に小学校1・2・3・4年生で年間20時間の英語の時間を設けている。

(委員)

今後も国際感覚が磨かれるような取組を考えていただきたいと思う。

## (2) その他

- ・総合教育会議の持ち方について

(市長)

今年度の総合教育会議は、何について話し合い、何回程度実施することを考えているのかについて議論していきたいと思うがいかがか。

(委員)

昨年は教育大綱を作るということで総合教育会議を進めてきた。事前にテーマを設定し総合教育会議を進めることも一つの案だと思う。

(委員)

この会議で何かを決定するというのではなく、市長に知っておいていただきたい情報を伝える場であっても良いと思う。例えば、昨年の総合教育会議で我々からいきいき学校生活応援スタッフを増やして欲しいという願いを伝えたが、早速今年度から予算を増やしてくださった。予算云々ではなく、教育現場の声が直接市民に伝わる会議になればと思う。

(委員)

私もそれに賛成です。一つのテーマで話をする 것도重要だが、市長と直接話ができるところが総合教育会議の良さだと思う。

(市長)

そういう総合教育会議の持ち方も一つの見識ではあろうが、事務局としてはいかがか。

(教育次長)

平成 27 年 4 月の法改正に伴い総合教育会議の設置が示された。総合教育会議では、協議、調整を行い、決定、決議、採択をするという会議ではないという位置づけであるとされている。

(市長)

おそらく、各学校によってそれぞれいろいろ悩みがあると思う。それは個々の学校の悩みの場合もあるし、共通した悩みもあると思う。本来は個々の学校の悩みが大切だと私は思うが、共通の悩みについて、総合教育会議で議論をしていただくということもできるのではないか。

(政策企画課長)

総合教育会議の在り方として、平成 27 年度に策定された沼津市教育大綱の理念を具体化するためにはどうしたら良いのかということについて議論していくことが大切であると感じている。

(市長)

教育基本構想あるいは教育大綱に書かれていることなどについて、テーマを一つか二つに絞り、学校の現場はこういうことが困っている、こういうお手伝いがほしい、地域の人たちにこういうことをしてほしいということについて議論していけば 1 年間で結構いろいろなことができると思う。

(委員)

市長の考え方の通り、教育大綱に沿った教育を具体的にどう進めていくかということ进行讨论、協議すべきというイメージがある。

(教育長)

教育大綱に掲げられている 4 つの基本的な方策をどう具現化していくのか、今後どうしたら良いのかということを探っていくことが大事だと思う。今日はコミュニ

ケーション能力、国際感覚という点にポイントを絞って協議していただいている。今年度、中学校3年生を対象に「みんなで受けよう！英検事業」を掲げているが、これまで言語教育に取り組んできた一つの成果として、また、小中の9年間を考え、中学校3年生までの子どもの姿をどう描くかなどを考えていくことも大切である。

また、義務教育出身の教育長として、現場の先生方、子どもたちが安心して日々の授業に取り組んでいけるようにすることを大切にしたい。それが大きな成果につながると同時に、沼津の未来をつくっていく上で大切であると思う。教育委員の皆様には、現場を視察することができてとても良かったと言ってもらっている。現場を見ていただき、効果的な方策、今後どうしていったら良いかという視点を大事にして考えていくことが自分の役割であると思っている。

(市長)

今年度は総合教育会議を3回くらい予定しているようだが、実質、今年度が総合教育会議の初年度であると感じている。学校現場で一番困っていることや、市にこうしてほしいということがあれば是非挙げていただきたいと思う。教育長も現場を非常に大切にすることなので、そこはぜひ総合教育会議の中で考えていきたい。

・特別支援教育について、学校教育課指導主事が説明。

(委員)

第二小学校にある言葉の教室を視察したこともあるが、現状は言語聴覚士がいない状態なので、何とか確保してもらいたい。

また、通常学級にいる児童生徒の中には通級指導教室に通わせたいが、現在は第四小学校と原東小学校にしかなく遠いため、通わせることができないという声もある。市内に通級指導教室が増えると、支援を必要としている児童生徒のために良いと思う。

(委員)

児童生徒の数は減っているにも関わらず、特別支援が必要な児童生徒は増えている。我々も特別支援教育に対する認識を変えていく必要がある。

(委員)

特別支援が必要だと思われる小学生とお年寄りの方が交流を楽しんでいる姿を見たことがある。また、通常学級にいる児童生徒と特別支援学級にいる児童生徒が日常的に交流し、フォローしあっていくということも重要である。そういった中で、

障害を個性として捉えることができるようになっていくと思う。

(委員)

国は、発達障害の早期発見・早期対応として就学時健診の見直しをすることや、教員養成段階での特別支援教育に関する科目の必修化、特別支援学校教員について特別支援学校教諭等免許の保有を必須化する方針を挙げている。

本市における特別支援学級を担任している先生の資格等はどうか。

(学校教育課指導主事)

特別支援学級は、小学校・中学校の教員免許を保有している教員が担当することができる。また、静岡県が公表した数値によると特別支援学校における特別支援学校教諭等免許の保有率は7割程度である。

(教育長)

特別支援教育への理解、発達障害への理解は、今まさに求められていることである。平成24年の文部科学省の推計によると、全体の6.5%の児童生徒が発達障害の可能性があるとされている。実際には、通常学級において授業に集中できなくて教室を出て行ってしまうなどの行動をとる児童生徒の中には、発達障害を抱えていると思われる児童生徒も確かにいる。そういった児童生徒を、指導者が周りの児童生徒と一緒に適切に指導していくことができれば、発達障害を抱えていると思われる児童生徒の力がもっともっと伸びていくとも思われる。

しかし、実際に何人もの児童生徒と手をつなぎながら、更にまた別の児童生徒に寄り添った指導をすることはとても難しいという現実がある。特別支援学級があったり特別支援教育に通じている支援員がいたりする場合は、発達障害を抱えていると思われる児童生徒の保護者と連携が取りやすくなり、その子にとって最もふさわしい学びの環境について学校と保護者が一緒に考えることができる。

今後も、学校、保護者、地域、行政が一体となりながら、特別支援教育や発達障害に対する理解をこれまで以上に深め、全ての児童生徒が安心して学べるようにしていきたい。

#### 4 閉会